

平成28年度全国及び岡山県学力・学習状況調査 結果と今後の取組について

津山市立喬松小学校

教育目標(めざす児童生徒像)

教育目標

夢をもち 心豊かに たくましく生きる 子どもを育てる

(めざす児童像)

・ 自ら学ぶ子 ・ 思いやりのある子 ・ 元気な子

今年度の指導の重点

- 確かな学力の定着・向上
①基礎基本的な学習内容の確実な定着 ②アクティブラーニングによる思考力・判断力・表現力の育成 ③家庭学習の充実
- 心を育む活動の充実
①相手の気持ちを考えた行動がとれる豊かな心を育む ②一人一人の良さを認める集団づくりをする
- 元気な心と体の育成
①キャッチフレーズ「新しい自分をつくらう」を達成するために、凡事徹底を図る ②体力向上プログラムを学校・児童会・学級で設定する
- 個に応じた特別支援教育の充実
- 安全教育と安心のある環境づくり
①危機管理を徹底して児童に安心・安全な学校生活を保障する ②安全教育・避難訓練・登下校指導等を通して、児童の安全意識の高揚を図る
③学校の情報を広く発信して、開かれた信頼される学校づくりをする

調査結果について(調査結果において明らかになったこと)

【学力状況調査の結果】

全国学力状況調査から

- 国語A、算数A、算数Bについては県平均と比べると正答率が高い。
- 国語Bは県平均と比べると正答率が低い。
- 国語Aでは「読むこと」「伝統的な言語事項」の領域については県平均より正答率が高いが、「話すこと・聞くこと」「書くこと」の領域については県平均より正答率が低い。
- 国語Bでは「話すこと・聞くこと」「書くこと」の領域については県平均より正答率が高いが、「読むこと」の領域については県平均より正答率が低い。読む能力に課題がある。
- 算数Aでは全領域で県平均より正答率が高い。算数Bでは「図形」の領域については県平均より正答率が低い。

岡山県学力状況調査から

- 国語の正答率は県平均より高いが、社会、算数、理科は県平均より正答率が低い。
- 国語では「書くこと」の活用、「伝統的な言語事項」の知識・理解に課題がある。
- 社会は地図や歴史に関する基礎的な知識・理解の定着に課題がある。
- 算数では「数と計算」「量と測定」の領域に関する知識・理解に課題がある。
- 理科は全体的に基礎的知識・理解の定着に課題がある。

【学習状況調査の結果】

- 自己肯定感が県平均よりも低い。
- 友達の前で自分の考えや意見を発表することを得意と感じている児童は県平均よりも高い。
- 将来の夢や目標を持っている児童も県平均よりも高い。
- 1日のゲームをする時間が4時間以上の児童は県平均よりも高い。反対に全くしないという児童も県平均よりも高い。ゲームについては個人差が大きい。
- 家庭学習時間は全員1時間以上取り組んでいる。喬松小6年生の家庭学習のきまりは70分以上なので、だいたいきまり通りできている。
- 30分以上読書している児童は県平均よりも高い。
- ほとんどの児童が学校に行くのは楽しい、友達に会うのは楽しいと感じている。
- 先生はよいところを認めてくれていると思っている児童は県平均よりかなり高い。
- 新聞をほとんど読まない児童は県平均より少し高い。
- 学校のきまりを守れていない児童も県平均より少し高い。
- 自分の考えを他の人に説明したり文章を書いたりすることは難しいと感じている児童は県平均よりも高い。
- 読書が好きと感じている児童は県平均より少ない。
- 「総合的な学習の時間」の勉強が好きと感じている児童は県平均よりかなり高い。
- 5年生までに受けた授業で「めあて」があり「振り返り」をしたと回答した児童は県平均よりかなり高い。

成果と課題

成果

- 国語、算数とも基礎的・基本的な学習内容は定着してきているが、学年による差はある。
- 「めあて」「まとめ」「振り返り」のある授業を意識して行えるようになってきた。
- 各家庭に配付している家庭学習のきまりを意識して家庭学習の時間を確保できるようになってきている。
- ノーマディアカードの取組や高学年と保護者を対象にしたスマホ・ゲーム等に関する講演会の実施によりスマホやゲームの時間を家族で考える機会をもつことはできた。個人差が大きいので個に応じた手立てが必要である。
- ほとんどの児童が学校は楽しい、友達と会うのは楽しいと感じていること、夢や目標をもっていることは成果の一つである。

課題

- 国語の読解力を高める必要がある。
- 社会、理科については基礎的・基本的な学習内容の定着が不十分である。
- 自分の考えを説明したり文章を書いたりする活動を充実させていく必要がある。
- 先生はよいところを認めてくれているとほとんどの児童が感じているのに自己肯定感を持っている児童が少ないのが課題である。
- 読書時間は確保できているが、読書が好きと感じている児童は少ないのが課題である。

課題に対応した改善方法

- 本年度の校内研修である説明文を中心に、資料と文、文と文を関連づけて読み取る活動を入れた授業を行うなど確実な読みの力を育てる。
- 日々の授業の中で、文章の要旨をまとめたり、条件(文字数・キーワード)を付けて自分の言葉でまとめたりする活動を取り入れる。
- 思考ツールを活用し言語活動の充実を通して、思考力・判断力・表現力を高める。
- 主語、述語など基本的な文法について作文指導、物語文や説明文の学習の中で繰り返し確認していく。
- 朝学習に国語の読解力を高める小テストを行う。(問題データベースの活用)
- 都道府県名覚えや歴史学習の基礎的・基本的な事象の理解の定着をはかれるように、また理科の基礎的・基本的な知識理解を高めるために定期的に宿題に復習プリントを出す。(問題データベースの活用)
- 科学的な思考力・判断力・表現力を高めるために、実験の方法を考える・仮説を立てる・実験する・結果について表などにまとめ考察するという時間をきちんと確保していく。
- メディアコントロールの取り組みを、中学校の定期考査に合わせて、PTAを中心に、年2回実施する。
- 自主学習を含めた家庭学習の充実に向けた取り組みで、学習習慣と基礎基本の定着を図る。(手引き・きまりの見直しと家庭との連携)
- 読書活動の推進。(読書の習慣づけ、基礎的な力)
- 学習のきまりの徹底を図る。(落ち着いた学習環境を整える。「学習のきまり」の見直しと振り返りで定着を図る。)
- 自己肯定感もてるように児童が自分の伸びを実感できる振り返りを行っていく。

取組の検証方法及び検証時期(2学期末及び年度末)

- 教職員、児童へのアンケートの実施(学期ごと)
- 学習のきまりチェックシートの活用(学期ごと)
- 各学年1回以上の国語の授業研究を行い改善を図る。
- 上記の結果を受けて、改善方法の見直しを図る。

各校の具体的な達成目標(数値目標等)

- 全国学力状況調査の国語Bの平均正答率で県平均を上回る。
- 岡山県学習状況調査の社会・算数・理科の平均正答率で県平均を上回る。
- 1日2時間以上ゲームをしている児童を0にする。
- 「自分にはよいところがある。」と回答する児童の割合で県平均を上回る。